

くにたち図書館資料選定基準

令和4年（2022年）8月改定

くにたち中央図書館

もくじ

くにたち中央図書館資料収集方針	2
資料選定基準	4
総記	5
哲学・心理学・倫理学・宗教	7
歴史	9
社会科学	10
自然科学	12
工学	14
産業	16
芸術	18
スポーツ・娯楽	20
語学	21
文学	22
地域・行政資料	24
逐次刊行物、参考図書、文庫・新書	25
視覚しょうがいしゃ用資料、視聴覚資料	26
マンガ資料	27
児童図書	28
ヤングアダルト資料、複本収集の原則、寄贈資料	30
補足	31

知的自由の共有をめざして ーくにたち中央図書館資料収集方針ー

本図書館は、知的自由の共有と情報の共有が、民主的な社会の維持にとって欠くことのできない要件であると確信するものです。

我が国の図書館は、自由と学問と人間の権利を自ら抑圧した歴史の反省に立って、「図書館の自由に関する宣言」、「図書館員の倫理綱領」を採択し、決議しました。図書館員は、これらを遵守し、高度の見識と公正な倫理観をもって、資料を収集する責務をすすんで負うものです。

わたくしたちは、公共図書館の歴史的な経過と社会的な装置として果たすべき役割とを深く認識し、「知る権利」をもつ市民の要求にこたえ、市民の財産としての知の蓄積を継承し、発展させるよう、以下の方針により、資料の収集、組織化と提供に全力を尽くすものです。

1. 資料収集の自由を守る。

「図書館の自由の宣言」にうたわれた項目に留意し、蔵書構成の不偏性をめざす。

- ① 多様な対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する。
- ② どのような資料も、著者の人種、国籍、思想、信条、また政治的、社会的な見解を理由に排除しない。
- ③ 個人や組織、団体からの圧力や干渉によって、資料の収集の自由を放棄したり、紛糾を恐れて自己規制したりしない。
- ④ 図書館員の個人的な関心や好みによって資料の収集をしない。

2. 市民の要望と期待にこたえた蔵書構成をめざす。市民から寄せられる要求にこたえるとともに、潜在的、将来的な需要を予測した資料の収集を行う。

- ① 個人が人生を楽しむことに役立つ、レクリエーション的要素のある読み物などの資料
- ② 想像力を養い、有意義な芸術的経験を与え、創造に対する個人の可能性をのぼすような資料
- ③ 自身の生きている世界を理解する能力を個人がのぼすのに役立つ資料
- ④ 地域社会、家族を構成する一員として生活するうえで、役に立つ実用的な資料
- ⑤ 個人が社会の生産的な一員として、十分に活動できるよう、その能力をのぼすための資料
- ⑥ 現在の情勢、傾向、論議を反映する資料、さらに将来においても何らかの意味をもつような、種々の異った見解を代表する最新の資料
- ⑦ 過去を文書で証明し、現在を検証する思慮深い解釈やその解説書および原典資料
- ⑧ 豊かな感性を育み、精神的、知的、身体的能力をのぼすような絵本などの児童資料

3. 常に新鮮な蔵書構成をめざし、資料の除架と廃棄に留意する。
- ① 資料の除架により、公開書架の中立性、公平性が損われないようにする。
 - ② 資料の除架により、市民の要求を制限しない。
 - ③ 所蔵資料の廃棄については、情報、資料の体系的蓄積と継承発展が損われないようにする。

昭和 61 年 7 月 1 日

資料選定基準

「くにたち中央図書館・資料収集方針」に基づいた資料収集を行うため、「くにたち図書館資料選定基準」を定める。

収集する資料の種類は、次のとおりとする。ただし、書き込むこと、切り取ること、組み立てることを目的とした資料、著しく破損しやすい資料は原則として収集しない。また、学習参考書、資格試験などの問題集は、原則として収集しない。

- ① 一般図書
- ② 児童図書
- ③ ヤングアダルト資料
- ④ 地域・行政資料
- ⑤ 参考図書
- ⑥ 逐次刊行物
- ⑦ 視聴覚資料
- ⑧ 視聴覚しょうがいしゃ用資料
- ⑨ マンガ資料

資料の選択は、「くにたち中央図書館・資料収集方針」と「資料選定基準」に基づき、図書館職員で構成する選書会議で選択し、図書館長が決定する。

総記

最新情報を要求される分野と、長期的蓄積により資料群としての価値が拡大する分野が混在していることに留意して収集する。

007 情報科学

工学的なものは、**548**（情報工学）に分類する。

I T・インターネットは**547.48**へ

パソコン関連は**549.92**へ

010 図書館・図書館学

この分野は、他に比して専門的な内容の資料も収集する。公立図書館、公共図書館に関する資料は、事務用も含めて網羅して収集につとめる。

020 図書・書誌学

出版関係・図書についての資料は、図書館の基礎的資料として捉え、多少専門的な資料も収集につとめる。

030 百科事典

刊行されている百科事典が、どの程度新しい情報を盛り込んでいるかに留意する。小項目主義の百科事典、専門分野別百科事典、児童と共用できる普及版的事典、外国語の百科事典等、幅広く収集する。

040 一般論文集・一般講演集

可能な限り各主題に収め、どの主題にも入らないものを収める。積極的選書はこの分野においては行わない。

050 逐次刊行物

059（年鑑）は、一度収集したものについては遺漏のないよう継続的に収集する。その際、採用されているデータが信頼に足るか（出所・時間など）どうかを検討する。

060 団体・学会・協会・会議

博物館を紹介した資料は、最新のものを揃える。

070 ジャーナリズム・新聞

内容の正確なものを収集する。また、対立する意見がある場合は、公平に収集する。
新聞縮刷版は、ここで収集する。新聞縮刷版は、原則として除籍は行わない。

080 叢書・全集・選集

各主題で収集することを原則とするので、この分野としての積極的収集は行わない。ただし、体系的に編纂され、その結果、主題が多岐にわたる多巻ものや叢書類、および上述の意図によって1冊にまとめられた著作集を収める。 例 世界の名著

090 貴重書・地域行政資料・その他の特別コレクション

地域行政資料については、別に分類表を定める。
大型活字本は、**091** に収める。

哲学・心理学・倫理学・宗教

これらはきわめて専門的な分野といえる。選書する際には専門分化された各々の議論をどの程度厳密に扱うかに留意する。

100 哲学

基本書を中心に、古典から現代まで幅広く収集する。叢書類は、主要な講座・大系等を収集する。哲学事典等で補えない最近の潮流や用語にかんするものは、積極的に収集する。

110 哲学各論

改訂を繰り返している著作は、定評のあるものといえるので、最新版の収集につとめる。

120 東洋思想

思想家の代表的なものはシリーズで揃え、補助的に研究書、解説書を収集する。翻訳書は、改訂があれば新しいものに取り替える。

130 西洋哲学

利用の多い分野なので、幅広く収集する。最低限日本十進分類法に現れる個人については、著作を揃える。現代の哲学者の著作も積極的に収集する。

140 心理学

カウンセリングについては利用も多いので、全体の構成を見つつ、ある程度専門的な資料も収集する。児童心理に関しては、社会科学におさめるのでここでは扱わない。異常心理に関しては、それが興味本位に書かれていないか、描写は正確か等に留意する。いわゆるオカルトものについては、伝統的易占い以外は収集しない。

150 倫理学・道徳

人生を深く考える資料を収集する。人生論以外の資料構成が弱くなりがちなので、それらについては特に留意する

160 宗教

事実の正確さ、論証の根拠の有無を十分考慮する。また、普及宣伝や、特定の宗教に偏らないようバランスに留意し、基本書を中心に収集する。

神話は、叢書類以外でも積極的に収集する。**389**（民族学）との調整に留意する。

170 神道

一般向けに書かれたわかりやすい資料を収集する。

180 仏教

特定の宗派に偏らないよう留意する。仏教美術については、芸術部門との調整に留意する。

190 キリスト教

利用の多い分野なので、研究書から一般向けの資料まで幅広く収集する。この分野は出版社によってはかなり専門的なものも多く、集書にあたっては内容の確認を怠らないようにしたい。

歴史

史実に忠実で、理解しやすい内容のものを収集する。市民の教養、研究、趣味等に資するため、基礎的、入門的な図書のほか、必要に応じ専門的、高度な内容の図書まで検討する。

210 日本史 220 アジア史 230 ヨーロッパ史 240 アフリカ史 250 北アメリカ史 260 南アメリカ史 270 オセアニア史

通史は、読みやすく歴史全体を網羅しているものを収集する。

歴史読み物、基本的な入門書、概説書、史料まで幅広く収集する。

叢書類は社会的に定評のあるものを収集する。

歴史観、学説を異にするものは公平に多種の資料を収集する。

219 地方史

近隣市町村をはじめ、都区、近接県、歴史的評価の高い地域の地誌、史料の収集に留意する。

220～270 外国史

欧米、アジア、アフリカなど幅広い地域の史料収集につとめる。

280 伝記

各分野における代表的人物を積極的に取り上げる。

外国人についてもひろく紹介する。

人名事典類については、興味本位の記事のものは除き、社会的に権威のあるものを収集する。

290 地理

地図は、鮮明で、正確性、実用性の高いものを収集する。

地誌、紀行は、宣伝的意味合いのものでなく、文学性、社会性のあるものを収集する。

旅行ガイド、都市地図、道路地図は、最新で、利用度の高いものを収集する。

社会科学

社会に目を開いた、自立した市民が学ぶ資料として、この分野の資料は質量とも、豊かに揃えていく。

社会人の教養娯楽的な読みものとしての需要も多いが、内容の科学性を重視して選ぶ。

302 政治・経済・社会・文化事情

304 論文集・評論集・講演会

著者の、テーマに対する姿勢、視点が公平で客観的であるか、十分注意して選ぶ。

309 社会思想

基本的な資料を体系的に収集し、充実させるよう心がける。

310 政治

基本的な資料を体系的に収集し、充実させるよう心がける。

318 地方自治、地方行政

幅広く、重点的に収集する。

東京都内のもものは、地域行政資料としても収集する。

319. 8 戦争と平和

普遍的課題として、子どもから大人まで幅広い要求がある部分であるので、積極的に、幅広く収集する。

ここには、社会問題としての、原子力を取り上げているものも収集する。

320 法律

実用的なもの、理念的なものを総合的に収集する。

330 経済

基本的な資料を、体系的に収集する。

話題性、時事性に富んだ内容のものも積極的に収集して、鮮度を保つ。

同時に、内容の正確さも吟味する。

340 財政

実用書を主に収集するが、情報が正確かどうか、留意する。

350 商業

基本的な商業の形態について収集する。統計は主題ごとに分類する。

360 社会学

市民生活に最も身近な部分なので、できるだけ幅広く網羅して収集する。

367 家族問題・男性女性問題・老人問題

いろいろな観点から書かれた資料を幅広く収集する。

369 社会福祉

いろいろな観点から書かれた資料を幅広く収集する。

370 教育

幅広い資料を収集していく。

基本的な資料は、体系的に収集する。

試験問題集は、原則として収集しない。

学校案内などは、最新のものを揃える。

380 風俗習慣・民俗学・民族学

出版年が古くても利用できる資料も多いので、古今東西の資料を幅広く収集する。

自然科学

収集にあたっては、専門的なものを除き、幅広く収集する。最新の分野については、様々な学説についてわかりやすく書かれたものを積極的に収集する。また、大学などでテキストとして使用されていると思われるものでも、一般的な教養書であれば積極的に収集する。

400 自然科学

自然科学は、科学史、科学事情を中心に収集する。科学評論は、科学と人間の関係について書かれたものを収集する。

410 数学

受験参考書の類や、単なる問題の解法について書かれた資料は収集しない。

420 物理学

専門的になりやすいので、入門書、概説書を中心に収集する。

430 化学

基礎的な資料を中心に収集する。

工業化学は、工学の分野に収める。

440 天文学・宇宙科学

記述が正確なもので、わかりやすく書かれたものから多少高度なものまで、幅広く収集する。

450 地学

幅広く収集する。気象学、地震学、古生物学は、積極的に収集する。

海洋、河川、湖沼に関する資料は、工学の分野と重複するが、自然保護の立場から書かれたものは広範囲に収集する。

460 生物科学・一般生物学

最新の情報の収集に努めるとともに、技術革新のみを追及した蔵書構成に偏らないように留意する。

470 植物学

植物図鑑は、幅広く収集する。特定の地域の植生に関する資料も要求が多いので、収集につとめる。

園芸植物は、産業の分野 **620**（園芸）に収める。

480 動物学

読み物に留まらず、個々の生態を正確に描写したものを積極的に収集する。野生動物の資料は写真が中心になりやすいが、写真集と思われるものは、**748**（写真集）との調整が必要である。

490 医学

医療全般にわたって入門書を揃えるほか、病気の知識、予防、対策や自己健康管理、食品の安全についてなど、幅広く健康を考えるための助けとなる資料を収集する。

闘病記、体験記、ルポルタージュ類は、実用的意味があるので収集する。

工学

一般的な基本書を中心に収集する。

工学、技術関係の分野の研究は、目ざましいスピードで進んでいる。

そのため、最新の情報は専門誌などに発表されることが多い。専門誌は収集していないが、単行本であっても、なるべく新鮮で正確な情報の載っているものを選ぶ。

519 公害・環境工学

生活と深い関わりがあるので、時事性、話題性を考慮し、幅広く収集する。

520 建築学

室内装飾（インテリア）関係の資料は、**597**（住居・家具）で収集する。

549 電子工学

コンピューター関係（**547.48** IT・インターネット、**549.92** パソコン関係）は、常に新鮮な蔵書を心がける。基本書を中心に、実用的なものを収集する。

550 海洋工学・船舶工学

主に、船舶関係の資料は、**683**（海運）に収める。

590 家事

日々の暮らしに役立つ知識やアイデアに関する資料を中心に収集する。冠婚葬祭・礼儀作法（マナー）などの実用書もこの主題に含む。

591 家庭経済・家庭管理

593 衣服・裁縫

初心者向けのものから、趣味的なもの、より本格的な実用書まで、幅広く収集する。流行の移り変わりや季節感に留意して、資料の新鮮さを心がける。

594 手芸

趣味や実用に役立つ資料を幅広く収集する。流行の移り変わりにもこたえられるよう、資料の新鮮さに留意する。

595 美容・理容

ファッションやおしゃれを楽しむ際の基礎知識について書かれた資料を収集する。

596 食物・料理

さまざまな食物、食品、料理法について、網羅して収集する。食文化（地方料理、伝統料理）や食生活に関する資料も積極的に収集する。

食品の安全、食事療法に関する資料は、**498.5**（食品・栄養）で収集する。

産業

ここには、農林水産業、運輸、通信を含む。

選定にあたっては、各種産業の最新の動向について把握できる資料の収集に努める。画一的な選定は行わないようにし、より多くの利用が期待される分野は特に充実させるようにする。また、地域の特性を考慮し、あまりに専門的なものは収集しない。

610 農業

専業農家が極めて少ないという地域性を考慮すると専門的な資料の需要は少ないと考え、一般的な農業行政、農業政策に関わるものを収集する。

620 園芸

家庭園芸に関する興味は、ますます高くなっているため、かなりの技術的、学問的な部分まで掘り下げた資料も含めて幅広く収集する。

629 造園

趣味的な実用書を重点に、文化的、芸術的な興味も満足させる資料も積極的に収集する。

640 畜産業

ペットの飼育に関する実用書を中心に収集する。

650 林業

自然保護および木材需要など、広範な立場で収集する。

660 水産業

観賞魚の増殖など、趣味の実用書を中心に収集する。

680 運輸. 交通

利用の多いところでもあり、幅広く積極的に収集する。

689 観光事業

実用的な資料を収集する。一部 **290** (地理) のガイドブックとの調和を図る。

690 通信事業

694（電気通信分野）については、最新の資料の収集につとめる。また、切手・スタンプ等に関しては、趣味に役立つ資料を収集する。

芸術

芸術は、感性に働きかけて人間性をより深めるものであり、年齢、性別を問わず幅広い要求の多い部分である。その要求に応えるためにも、入門書からある程度高度なものまで、積極的に収集する。また、資料の性質上からも、この部門の本は、特に仕上がりの美しいものを選ぶ。造本も堅牢なものを選ぶ。

710 彫刻

技法書は、基本的な入門書を収集する。

作品集は、主な作家のものを収集する。

720 絵画

技法書は、基本的なものを中心に数多く収集する。

作品集も数多く、幅広く収集する。

726 漫画・挿絵・童画

技法書等は基本的なものを収集する。挿絵・童画作品集も幅広く収集する。

マンガ作品については p.27 「マンガ資料」 に別途記載する。

730 版画

技法書は、基本的なものを中心に数多く揃える。作品集も数多く、幅広く収集する。

740 写真

技法書類は、基本的なものを中心に数多く揃える。

748 写真集

幅広い利用がある分野なので、積極的に収集するよう留意する。

芸術的な写真集をここに収める。

特に印刷の仕上がりに注意し、美しいものを選ぶ。

750 工芸

利用の多い分野なので、技法書も数多く揃える。個人で趣味的に作るための資料は **594** (手芸) に収め、ここには、より芸術的、専門的な資料を収集する。

760 音楽

クラシックからポピュラーまで、定評ある案内書を中心に収集する。製本されていない楽譜は、収集しない。譜面つきの歌集は、各種収集する。

770 演劇

日本の伝統芸能から、前衛芸術まで幅広く収集する。

図や写真を使って、わかりやすく書かれた解説書や入門書も収集する。

能、歌舞伎、学校劇、人形劇の脚本は、ここに収める。その他の古典劇、近現代劇の脚本は **912**（戯曲）に収める。

778 映画

映画一般の歴史、俳優史などに関心が高い分野なので、技術的なものだけでなく幅広く収集する。常に新鮮で良質な資料の充実につとめる。

スポーツ・娯楽

この部門は人それぞれの趣味や余暇活動に直接結びつくものであるので積極的な選書につとめる。

780 スポーツ・体育

趣味的な領域だけにとどまらず、各競技の技術書など、偏らずに幅広く収集する。

790 諸芸・娯楽

個人が楽しむことに役立ち、レクリエーション的要素のある読み物を含め、鑑賞、研究、制作、実技との両面にわたったものを幅広く収集する。また、文化的な意味からも古典も収集する。

語学

多面的視点にたち、入門書、概説書のほか、社会的評価のある辞典は積極的に収集する。

801 言語学

言語全般について、基本的、実用的な資料を多角的に収集する。

810 日本語

国語の主体は日本語であり、入門書、概説書、社会的に定評のある辞典類を体系的に収集する。語源、類語、古語、ことわざ、流行語などの特殊辞典も幅広く収集につとめる。

820 中国語 829 その他の東洋の諸言語 830 英語 840 ドイツ語 850 フランス語

860 スペイン語 870 イタリア語 880 ロシア語 890 その他の諸言語

国際化に対応する、幅広い資料の充実につとめる。

特に英語の語学書、辞典類を豊富に用意する。

各国言語も、基本的資料を収集する。

文学

文学書、特に現代日本文学は、出版点数も、利用者の希望も、もっとも多い部門である。豊富な資料を用意し、常に新鮮で魅力ある書架構成を目指して、要望に添えるよう努める。

900 文学一般

文学理論、文学史については、あまりにも専門的なものは避け、入門書、一般書を中心に集める。

908 研究叢書・文学全集

代表的なものを厳選して収集する。

シリーズものの外国文学全集は、ここに収める。

個人の作品を集めたものは、それぞれの著者名順に分類する。

909 児童文学

優れた研究書を選んで収集する。児童図書との調整が必要である。

910 日本文学

912 戯曲

古典劇、近代劇はここに収める。

読み物として、特に優れたものを集める。

能、歌舞伎、人形劇、学校劇の脚本は **770 (演劇)** に収める。

913 小説・物語

914 評論・エッセイ・随筆

915 日記・書簡・紀行

916 ルポルタージュ

江戸時代までの作品は、それぞれ上記に分類する。

明治以降の作品で、個人あるいは2名までの著作の場合は、その著者名順に分類する。

明治以降の作品で、多数の作者による著作の場合は、それぞれ上記に分類する。

主な文学賞については、受賞作を少なくとも1冊は収集する。

暴力・性描写については、それが、人間性の尊厳をおとしめるものでないか、充分注意する。

918 作品集、全集、選集

ここには、江戸時代までの作品集を収める。

代表的な全集はできるだけ揃える。

注釈書、口語訳書なども、内容の優れたものを幅広く選ぶ。

明治以降の作品で、個人の作品を集めたものは、それぞれの著者名順に分類する。

920 アジア文学 930 英米文学 940 ドイツ文学 950 フランス文学 960 スペイン文学

970 イタリア文学 980 ロシア文学 990 その他の諸国の文学

各国の文学史、研究書以外の個人の著作は、原則として著者名順に分類する。

ただし、蔵書数によっては3桁の地理区分ののち、著者名順に分類する。

(例 中央図書館 中国近代小説 **923.〇** 東洋文学 **929.〇**)

数種類の訳本が出ているものは、比較検討して、翻訳の優れているものを選ぶ。

英米文学にかたよらないよう、他の地域の作品（特にアジア地域の作品）は、力を入れて収集する。

原則として、個別の作品が手に入るものはそれを優先するが、個人全集は、代表的作家のもので、全集として価値の優れたものを選ぶ。

地域・行政資料

市民の調査・研究のため、国立市の歴史・文化を伝えていくために地域・行政資料を収集する。国立市に関する地域行政資料は網羅的に収集し、東京都及び多摩地域の資料についても必要に応じて収集する。

地域・行政資料は、地方自治体を設置する公共図書館において、最終的に責任を負わなければならないため、積極的に収集する。

収集の基本的考え方

- ・ 原則として和書を収集する。
- ・ 新刊書は、特に多摩地域を主題にしたものを中心に収集する。
- ・ 古書は、武蔵国に関するものを収集する。
- ・ 一般資料としてすでに収集済みの資料でも、必要に応じて地域資料用に収集する。
- ・ 図書形態の資料のみでなく、パンフレット類も収集する。
- ・ 収集方法は寄贈が主である。

収集範囲

A 歴史資料・・・・・・・・①谷保村、国立町の資料

②北多摩、南多摩、西多摩郡の資料

③区部の資料

④東京府以外の武蔵国の資料

B 現代資料・・・・・・・・ a 行政資料

① 国立市の資料

② 多摩地域の各市町村の資料

③ 多摩全域の資料

④ 東京都の資料

⑤ 区部・島しょの資料

⑥ その他

b 市民資料

①市内民間団体の資料

②公刊されていて国立市、多摩、東京を扱った資料

③市民の著作（国立市に関する記述のあるものが中心）

④国立市に関する逐次刊行物・新聞類

⑤国立市に関する広告類

⑥写真資料

⑦地図類

⑧その他

逐次刊行物

新聞・雑誌は、最新の情報源として、また、市民の趣味や生活に役立つものとして、幅広く収集する。

① 新聞

- ・ 主要な全国紙を中心に、収集する。
- ・ 必要に応じて、専門紙、機関紙、外国語紙についても収集する。
- ・ 原紙の保存は3ヶ月とする。

② 雑誌

- ・ 各分野の主要なものを収集する。
- ・ 市民の趣味や趣向に留意して収集する。
- ・ 収集する雑誌は年一回見直す。

参考図書

調査・研究のために辞書、事典、白書、統計、年鑑、地図、目録、書誌等を収集する。

- ・ 年鑑、白書、統計は継続して収集する。
- ・ 最新の情報を提供できるように留意する。

文庫・新書

文庫・新書の選定には、次のことに留意して収集する。

- ・ 書き下ろしの場合は、収集につとめる。
- ・ すでに単行本などで入手できなくなっている場合は、収集につとめる。
- ・ 解説文など、単行本に入っていない情報が必要な場合は収集につとめる。

視聴覚しょうがいしゃ用資料

目や耳の不自由な利用者のために、下記の資料を収集する。

- ・しょうがいしゃ（弱視者）、高齢者向けに大活字本を収集する。
- ・目の不自由な利用者のために、音訳テープ等を収集する。
- ・目の不自由な利用者のために、点字の本を収集する。
- ・そのほか、図書館長が必要と認めた資料を収集する。

視聴覚資料

視聴覚資料は、下記の資料を収集する。

- ・CDを主に収集する。
- ・ジャンルは、文学作品、語学、クラシック音楽、ポピュラー音楽等を中心に収集する。
- ・各分野の代表的な作品を中心に収集する。
- ・そのほか、図書館長が必要と認めた資料を収集する。
- ・予約は、くにたち図書館所蔵のものに限る。

マンガ資料

この項目における「マンガ」とは、実用・学習マンガを除いたストーリーマンガ、ひとコマないし数コマで構成されているマンガを対象とする。

下記の全ての基準をみたすマンガ資料は、収集を検討する。

- ・一定の社会的評価を得ており、日本の漫画史上、重要とされるもの。
- ・保存に適した装丁のもの。

留意する点

① 選定に関して

マンガ表現は視覚的効果の高い表現形式である。下記のような表現のあるマンガ資料は留意して選定する。

- ・露骨な暴力・性表現
- ・社会・道徳に反する表現
- ・人間や生命の尊厳をおとしめる表現

② リクエストに関して

- ・未所蔵のマンガのリクエストは受け付けない。

マンガ資料は選定に時間を要し、迅速な対応が難しい。借用についても、マンガ資料は自治体間で協力貸出・借受けは行われておらず、利用者に提供することは難しい状況にある。

- ・マンガ資料は協力貸出、借受けはしない。

なお、下記の内容は別部門で検討する。

- ・児童向けの学習マンガ 実用マンガ→児童担当が児童書選書基準に基づき検討
- ・マンガ表現を用いた大人向けの実用書→各担当が各分野の選書基準に基づき検討
- ・舞台、題材、作者等が国立市に関わるマンガ→地域資料担当が選書基準に基づき検討

児童図書

多くの本の中から、人間にとって深い意味を持つもの、興味深いもの、美しいものを選んで、子どもたちに手渡したい。

それによって、子どもたちの人間性は育まれ、想像力を豊かに育てることができる。

また、子どもたちの確かな美意識や選択眼も培われていく。

さらに、成長の過程にある子どもにとって、それぞれの発達段階に応じた読書が重要であり、とくに、人生の初めに会える絵本は一生の読書体験の基礎になるので、ていねいに選ぶ必要がある。

絵本

- ・ 絵が、文章を物語っているもの
- ・ 絵が内容にふさわしい形式、色彩、用法で描かれているもの
- ・ 文体がすぐれ、子どもにふさわしい表現をしているもの
- ・ 子どもが、楽しめるもの
- ・ 大きさが、内容にあっているもの
- ・ 製本がしっかりしていて、こわれにくいもの
- ・ 古典、名作等を無理に抄訳し、絵本化していないもの

文学

- ・ 創造性が豊かで、子どもの成長を促すもの
- ・ 登場人物が個性的で、生き生きしているもの
- ・ 子どもが楽しめ、その世界を体験し、共感できるもの
- ・ 挿絵は、物語にふさわしいもの
- ・ 幼年文学は、絵本から物語への過渡期の本であり、文と絵の調和のとれているもの
- ・ 子どもたちをとりまく生活や社会問題を扱ったものは、人間への信頼を失わず、生きる力になるもの
- ・ ファンタジーは空想の世界を損なうことなく、なおかつ現実感あふれたものとして伝わってくるもの
- ・ 古典、名作は完訳か、またはそれに近いもの

ノンフィクション

- ・ 正確な内容であるもの
- ・ 知識だけでなく、科学的なものの考え方や自然への愛情を大切にしているもの
- ・ 子ども発達段階に応じて、理解しやすい内容や、表現の工夫のあるもの
- ・ 興味深く書かれ、さらにそれを育てるもの

- ・ 著者や編集者の姿勢が信頼できるもの
- ・ 挿絵、写真、表、図版などが、正確で適切なもの
- ・ 専門用語の解説や索引、参考資料が、充分であるもの
- ・ 最新の情報が、盛り込まれているもの

かみしばい

- ・ 子どもが楽しめるもの
- ・ 絵が内容にふさわしいもの
- ・ しつけや教訓じみしていないもの

外国の児童書

- ・ 現在、若干の英文などの絵本、フィクションのものがほとんどである。今後の課題は、英語圏以外のものや、ジャンル、グレードなど検討する必要がある
- ・ 国際的な賞を受賞（コールデコット賞、ニューベリー賞、アンデルセン賞等）し、評価の定まっているもの
- ・ 何カ国語にも翻訳され、世界中の子どもに読まれており、評価の定まっているもの

ヤングアダルト資料

中高生に関心のある分野（小説、よみもの、ノンフィクション、進路、職業、実用等）の資料を幅広く収集する。資料の形態については図書のみならず、雑誌等の逐次刊行物も、関心の高い分野については質を考慮し、収集する。

複本収集の原則

- ・ 市民の希望が多く、また、長く読み継がれる価値のあるものは、複本で収集する。
- ・ 児童書、実用書、小説類などは、中央館、分館、分室で適宜複本をそろえる。
- ・ 参考図書のうち、よく利用されるもの（一部の年鑑、ガイドブック、辞典など）は、館内用と貸出用とをそろえる。
- ・ 大人にも子どもにも読まれる本は、それぞれ収集する。

寄贈資料

- ・ 市民から寄贈を受けた資料は、資料選定基準に照合して受入を検討する。
- ・ 国立市在住の著者自身による寄贈資料については、積極的な受入を検討する。

補足

- * 「くにたち中央図書館・資料収集方針」
図書館協議会で確認（1986. 7. 1）
前文紹介（「くにたちのとしょかん NO. 22-1986年8月31日号」）

- * 「くにたち図書館資料選定基準」
図書館では開館以来、資料選択の基準をもうけてきた。
文章化は、平成2年（1990年3月27日）に行った。
平成19年（2007年4月3日）に改訂を行った。

- *平成27年6月30日に、本基準内に定められていた「図書館資料の除籍に関する基準」
は削除し、別途「くにたち図書館資料除籍基準」を策定した。

- *令和2年3月30日に、本基準内「視聴覚資料」の項における「カセットテープ、CDを
主に収集する」を、「CDを主に収集する」に改めた。

- *令和4年6月1日に、本基準内「マンガ資料」の項における「原則的には、収集しない。」
の文言を削除し、地域資料に関することを追加したほか、記載様式及び文言を整理した。
また、「マンガ資料」以外の項における現状にそぐわない規定を削除した。

- *令和4年8月1日に、本基準内「マンガ資料」の項における文章を数か所修正した。